

小笠原中学校

学校だより

第10号
2月

平成30年2月1日(木)
小笠原村立小笠原中学校
校長 新妻 茂
<http://www.ogachu.que.ne.jp/>
<https://www.facebook.com/ogasawara.jhs>

限 界

校 長 新 妻 茂

第23回冬季オリンピックがお隣韓国の平昌（ピョンチャン）で今月の9日（金）に開幕します。17日間7競技102種目が行われ2月25日に閉幕します。日本は国外で行われる冬季オリンピックでは最多となる267名の選手・役員を派遣するという事です。（国際スキー連盟の出場枠再配分があるので、1月現在では確定していません。）前回のソチ大会では初めて女子選手の数が男子選手の数を上回りましたが、今回の平昌大会でも女子選手の数が男子選手の数を上回っています。その女子選手の中でも注目される選手について調べてみました。

スキージャンプの高梨沙羅選手ですが、昨シーズンまでW杯53勝していたのですが、今シーズンは勝ちがありません。常に完璧なジャンプを目指す彼女ですから、ちょっとした狂いが生じているのかもしれませんが、一番大きいのはこの2～3年外国勢に高梨選手のジャンプが徹底的に解析・研究しつくされたことです。IOCは男女平等を謳っていて、オリンピックで初めて女子のジャンプが正式種目になったのは前回のソチ大会からです。高梨選手が世界を引っ張ってきたのは事実です。聡明な彼女のことですから何とか結果を出して欲しいと願っています。

高梨選手と反対に今シーズン絶好調が伝えられているのが、スピードスケートの小平奈緒選手です。ソチ大会のスピードスケートではオランダ勢が圧勝しました。そこで彼女は29歳の時にある決断をします。それはオランダ選手の中に入って練習するという事です。2年間をオランダで過ごしました。当然オランダ語も習得しています。オランダ人はほとんどがスケートをします。凍った運河でスケートマラソンをやるようなスケート王国なのです。女性のアスリートとしては29歳というのは現役を続行するののかしないのか難しい年代だと言われていますが、敢えて自分を違った環境に置こうと決意したことに小平選手の意気込みが感じられます。

スピードスケートでもう一人注目しているのは、1000m、1500m、3000m、TP（チームパシュート）に出場する高木美帆選手です。特にTPは昨年のW杯で3連勝し、そのたびに世界記録を更新しています。美帆選手は中学3年の時にバンクーバー大会の日本代表でした。しかし、ソチ大会は不振で代表からもれました。この時は姉の菜那選手が代表になっています。今回の平昌大会は姉妹そろっての出場となりました。その美帆選手にも転機になったことがありました。一昨年の3月、オリンピック3大会連続金メダルの絶対女王イレーン・ブスト選手（オランダ）のレースを見た時、美帆選手が思わず本音をもらしました。「あんな選手に勝てるわけがない」と。それを聞いたオランダ人の日本代表コーチが「ブストも同じ人間。なぜ自分にもできると思わないの？」と問いかけました。美帆選手は、「できない」と決めつけてしまった自分の弱さに気がついたそうです。

限界をつくるのも破るのも、自分自身なのです。これはアスリートも私たちも同じことです。平昌では勝ち負けよりも限界に挑む選手たちの姿に学びたいと思います。

2月の主な行事予定

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1日（木）新入生保護者説明会 | 11日（日）建国記念の日 |
| 1日（木）学校公開 3日（土）まで | 12日（月）振替休日 |
| 3日（土）道徳授業地区公開講座 | 14日（水）食育の日 |
| 5日（月）新入生説明会（授業・部活体験） | 22日（木）いじめ対策学校サポートチーム協議会 |
| 6日（火）新入生説明会（部活体験） | 23日（金）都立高等学校入学試験 |
| | 26日（月）学年末考査 28日（水）まで |

校内百人一首大会

昨年12月から、校内百人一首大会に向けて、国語の授業で百人一首が始まりました。少しずつ句を覚え、少しずつ感覚を覚え、畳の上の競技である百人一首を楽しむ姿がどの学年でも見られました。

団体戦は、学年対抗で行いました。チームで戦う源平戦。仲間と互いに励まし合い、札を取ったときは一緒に喜んでいました。1枚の札の重みをみんなで分け合い、団結につながったと思います。結果、6チーム中5チームが勝利した2年生が優勝し、見事2連覇を達成しました。おめでとうございます。

個人戦では、今年度から小笠原中学校百人一首「名人位」、「クイーン位」を決定しました。静かな会場の中、札を見つめ、耳を澄ましている緊張感がとても伝わりました。

また、全教員が順に札を読み、大会に色を添えてくれました。今年は、休み時間や放課後、家庭でも練習をしている様子があったようです。何かに一生懸命に取り組んでいる人は、本当に輝いています。悔しい顔、嬉しい顔、楽しい顔、本気で取り組むことができた人にしかない顔をたくさん見ることができました。

小笠原中学校の百人一首の伝統が、この先も受け継がれることを願っています。



ロードレース大会

保健体育科 麻生 直人

今年のロードレース大会は、本番を前にして中学校でインフルエンザが流行し、1年生と2年生の2学級で学級閉鎖という対応を取ることになりました。朝練も計10回ある内の5回が中止になり、当初に予定していた回数の半分に減ってしまいました。そのように開催すら危ぶまれる中、さすがは島の子供達。なんとか体調を持ち直し、多くの生徒が大会に参加できました。

本番当日は曇り空でしたが風は無く、長距離走を走るにはベストコンディションでした。中学生は大奮闘し男女共に団体優勝。生徒達の力強い走りには驚きました。

私は初めてのロードレース大会への参加でしたが、印象に残ったことが2つあります。

ひとつは全員が歩くことなく走りきったことです。どんなに先頭から離れようとも誰も途中で投げ出したり、諦めたりすることなく自分のペースを維持しながら最後まで走り続けていました。長距離を走ることは辛いです。運動が苦手だと感じている子はなおさらです。それでも全員が走り切れたことは大変嬉しかったですし、生徒達の体力の底力を感じることができました。もうひとつはコースの至る所で声を張り上げて応援して下さった保護者の皆様や地域の方々の姿です。走ってくる生徒全員に「頑張れ〜」「もう少しだよ〜」と温かい声をかけて下さいました。生徒達が全員完走できたのは、応援して下さった皆様の力が大きかったことは間違いありません。

島の子供達の力強さ、島の大人達の温かさを肌で感じる事ができた大会でした。当日の声援など本当にありがとうございました。改めて、感謝申し上げます。

お知らせ

- 1月31日（水）から2月3日（土）まで学校公開です。美術の作品や書き初め等の展示、授業公開を行っています。生徒の様子を是非ご覧ください。
- 2月は芝生の養生期間となります。小中学校のグラウンドは立入禁止となります。ご理解のほどよろしくお願いします。

